

第2回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2025年7月8日(火) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 20名

◇実践報告 滋賀県草津市立老上中学校 辻大吾先生

「老中生三方よし ～スクールくさつESDプロジェクトの取組から～」

【実践概要】

草津市立老上中学校：生徒数665名 3学年各7クラス 矢橋(やばせ)

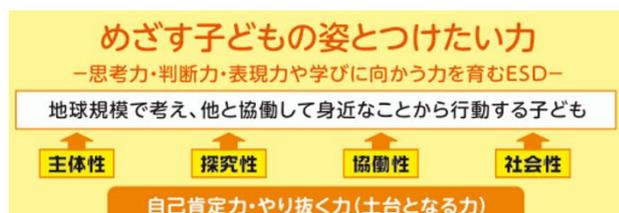


「もののふの 矢橋の船は速けれど
急がば回れ 瀬田の長橋」

昨年度より、草津市内の全小中学校において、
「スクールくさつESDプロジェクト」を展開

子どもたちが身の回りの事象を地球規模で考え、他者と協働して身近なことから行動することにより自己肯定力ややり抜く力、主体性・探究性・協働性・社会性を養うため、「総合的な学習の時間」を中心に、地域と学校に共通する課題解決のために、教科で学んだ知識を活用して、地域と協働して学習する「スクールESDくさつプロジェクト」を市内小中学校で実施

地域と学校が共通する課題解決のために 地域と学校が協働して学習を実施



第4期教育振興基本計画を受け、
第4期滋賀県教育振興基本計画、
第4期草津市教育振興基本計画を策定
その中での「スクールくさつESDプロジェクト」

(老上中の全体スローガン) 行動すること!

「考動」：持続可能な社会の創り手の育成

「幸動」：自他のウェルビーイングの向上

(老上中学校の総合的な学習の時間の目標)

- ①持続可能な社会のテーマを中心とした探求学習において自ら課題をみつけ、自ら考え、自ら考動できるような学習内容の実施
- ②学び方やものの考え方を身につける
- ③卒業後を見据え、自己の生き方を考える

近江商人の「三方よし」の精神を真似て、

2年生総合学習「老中生三方よしプロジェクト 世間よし・琵琶湖よし・みんなよし」

・ 1年1学期

O'PAL（オーパル）での自然体験学習における「カヌー体験・ヨシ帯観察」「ヨシ笛づくり」等琵琶湖や滋賀の魅力を伝えるために、O'PALの体験からまとめる・調べる・深める

→ 2学期 伝える活動（文化祭で）

→ ヨシと滋賀・琵琶湖についてさらに深める

ヨシの保全や利用にめぐる様々な問題を解決するには？

ヨシは1年で約3m成長し、冬に枯れて刈り取る 刈り取ったあと焼く

放置すると、二酸化炭素の吸収量減少、メタンガスの排出、水質悪化、動植物のすみかの減少

・ 1年3学期

ヨシの刈り取り（校外学習）

・ 2年1学期

乾燥させたヨシの皮むき

→ ヨシ簀（すだれ）づくり

各教室に設置し、室温の変化や快適性を検証する予定

・ 今後のビジョン

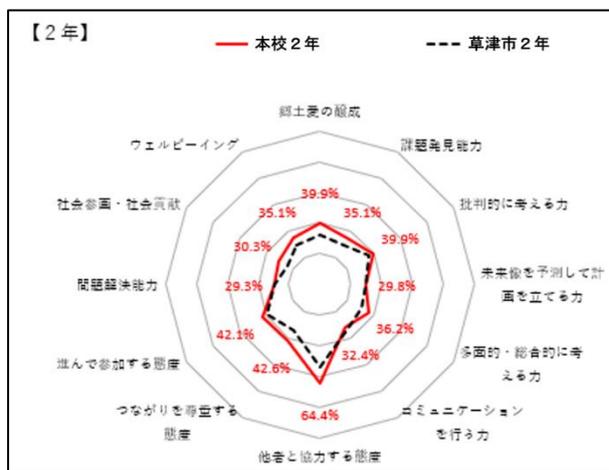
ヨシを使用しランプづくり

ヨシ笛づくり・演奏会

ヨシを使った商品の企画提案

（2学期には）イナズマ・ロックフェスで来場者に「ヨシについて知ってもらおう」

（3年生になった）ヨシを使った商品化・販売、ヨシ紙で卒業証書作成 などを構想中



本実践を通して、子どもの資質・能力の高まりがみられる

5月段階での結果のため更なる高まりが期待できる

（今年度）

1年生：防災学習

3年生：老上再発見プロジェクト

7月21日に開催される世界湖沼会議のユースセッションに、この取組を動画にまとめて参加予定

【意見交流から】

○琵琶湖の宝であるヨシを題材に、学年を追ってスパイラルに展開されているダイナミックな実践である。子どももワクワクすることだろう。

○長浜市でも、びわ中学校が30年以上にわたって苗を育てて植樹している。一度交流されてはどうか。

○平城宮跡に群生するオギを題材に学びを展開しているが、ヨシのように刈り取った後の活用ができないか模索中。ヨシ簀はヒントになった。

○この実践の全体設計はだれが？

→ 大卒のビジョンや大事にしたい資質・能力などは校長から出したが、具体的な計画は学年で。

○小学校との連携は？

→ 草津のプロジェクトはまだ昨年からはまったばかりなので連携ができているとはまだ言えない。

○ハナバチから環境学習を進めようと思っているが、ヨシがその住みかにいいと聞いた。琵琶湖のヨシをぜひ使いたいので連携させてください。

○小学校の間にどういう力をつけて中学校に入学してもらえるといいと考えているか？

→ 自分の考えを表現できる、アウトプットできる力があればいいと思っている。

○ESD に学校全体で取り組むにあたって、教員のメリットやハードルは？

→ 子どもの反応が大きいと教師のやる気も出る。

さらにもっとこんなことができないかと意欲的になっている。

最初は負担感を感じるのではと危惧したが、むしろ教科の中にもっと ESD の視点でできないかというもどかしさを感じている。

○中学生から小学生に伝える場面があってもいい。

○ヨシという一つの題材から様々なところへ広がる学びになっているのは、ヨシという題材がいいのか、老上中学校の先生たちのマネジメントがすごいのか、たぶん両面だと思う。さらに、子どもたち自身が「次は・・・」と前のめりになっているいろんな発想を生み出しているところに価値があると感じる。

○今はヨシの活用に重点を置いておられるが、3年間のどこかで、ヨシがそこに健全な姿であることの大切さが実感できる活動があればいいと思う。

(生き物調査や水質調査など専門家にあっていただきながら、実際に調査させてみたい)